

## 空飛ぶクルマの社会実装に向けた地域連携、城の崎にて

城崎温泉での空飛ぶクルマの社会実装に取り組む背景について  
- 空クル関連事業者 編 -

---

### ご説明内容

- 兼松の取組に関する前提
- なぜ城崎温泉での取組なのか？
- 城崎温泉での取組状況



2024年12月17日

## 創業主意

「わが国の福利を増進するの分子を播種栽培す」

創業者：兼松房次郎

「いま一粒の種をまく、それは我が国、日本の幸福、利益を増進する芽ばえを期待して、いまその種をまくのだ」と言う、当社創業者兼松房次郎が創業の際に宣言した主意です。「わが国の福利」とは明治時代に日本人が経済を発展させるための共通した社会的使命観でした。現在では、一般公共の利益、社会貢献、国際社会への寄与、人類への貢献などに通じる考え方であり当社の企業活動の原点となっています。



## 空飛ぶクルマ関連事業を進める上での前提について

### 目的

地域の魅力・機能を高め、より人々が訪れたい、住みたい、働きたい地域をつくること。

### 目標-目指す姿

地域において、空飛ぶクルマが訪問者、住民双方の役に立ち、地域になくてはならない存在になっている。

**空飛ぶクルマの導入、バーティポートの設置が目的化しないように注意しながら推進**

離着陸場の開発・運営事業に取り組んでいます。

認識①：インフラ整備が電動モビリティ普及の課題

認識②：離着陸場所の確保が過去のエアモビリティ普及でも課題に

空の課題を陸から解決することによる事業共創

イラスト出所：Skyports社

## 離着陸場の設置プロセス

目的

地域の魅力・機能を高め、より人々が訪れたい、住みたい、働きたい地域を作ること。

目標-目指す姿

地域において、空飛ぶクルマが訪問者・住民双方の役に立ち、地域になくてはならない存在になっている。

### 準備段階

### 事業化

ネットワーク  
構想

候補地抽出  
初期評価

設置検討  
調査

関係者間  
基本合意

土地確保

設計  
設置申請  
環境アセス

建設  
試験

運用  
開始

← **バックキャストिंग**

多くのステップを経た合意形成、設置プロセスが存在し年単位の時間を要する

## 納得感のある空飛ぶクルマ導入のストーリーが存在

要素	理由
地域特性	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 兵庫：五国が織りなす多様な気候風土・歴史文化、広大なエリアに広がる魅力</li><li>➤ 城崎：◆国際的な評価が高まる「高付加価値」なデスティネーション(ウリ・ヤド・ヒト・コネ)<ul style="list-style-type: none"><li>◆大都市圏・近隣観光地からの物理的/時間的距離(遠くないのに、遠い)</li><li>◆山と海に囲まれたチャレンジングな地理条件</li></ul></li></ul>
エコシステム	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 一体感および先進性を兼ね備えたデスティネーションマネジメント</li><li>➤ 地域における空飛ぶクルマへの期待やステークホルダーの熱意</li><li>➤ 整備・駐機拠点となりえる地方空港(コウノトリ但馬空港)</li><li>➤ 日本一のドクターヘリ稼働地域（公共需要と社会受容性の存在）</li></ul>
行政支援	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 兵庫県による事業者支援、社会受容性醸成等の後押し、手厚い現場対応</li><li>➤ 豊岡市の豊富な官民連携実績</li></ul>
機会	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 城崎温泉の次世代まちづくり構想（北但大震災復興100年記念プロジェクト）</li><li>➤ 神戸空港の本格国際化（2030年）</li><li>➤ 兼松創業の地、兵庫における地域貢献のチャンス</li></ul>

ねらい

- ◆ 兵庫県内の空クルネットワーク構想を策定し、離着陸場の有力候補地を抽出
- ◆ 離着陸場候補地における事業化判断に必要な要素の確認

## 準備段階



### 調査①：兵庫を起点とした空クルネットワーク検討

- ★ 需要サイド・着地整備の調査
- ★ 関係者へのヒアリング調査
- ★ 但馬地方を空クル導入可能性エリアに選定
- ★ 城崎温泉近郊での具体的な候補地選定



### 調査②：候補地における離着陸場設置検討調査

- ★ ポートのレイアウト作成（施設配置等）
- ★ 空域（制限表面等）
- ★ 就航率（天候）
- ★ 需要（ビッグデータ活用および一次情報）
- ★ 設置プロセス・課題の抽出（航空/非航空）

注）兵庫県/神戸市 空飛ぶクルマ実装促進事業を活用し推進  
成果概要 兵庫県ウェブサイト：<https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr10/documents/kanematsu.pdf>

ねらい

- ◆ 城崎温泉における離着陸場設置・運営の事業化に向けた検証・深度化
- ◆ まちづくりを踏まえた、事業者や地域等との導入に向けた合意形成の課題・方針整理

## 準備段階



### 調査①：離着陸場設置検討調査の継続

- ★ 地盤・電気・3次元風況の調査
- ★ 空クル・離着陸場の事業構想検討

### 調査②：環境アセスに向けた予備調査

- ★ 地域特性の把握(データ、専門家ヒアリング)
- ★ 環境との共生の課題・プロセス整理

### 調査③：城崎まちづくり構想 x 空飛ぶクルマ

- ★ 空飛ぶクルマ活用ビジョン案策定
- ★ アクションプランの整理

注) 兵庫県/神戸市 空飛ぶクルマ実装促進事業を活用し推進

概要 大阪RTウェブサイト : [https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/89061/09\\_kanematsu.pdf](https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/89061/09_kanematsu.pdf)

## 調査③：城崎まちづくり構想 x 空飛ぶクルマ

### STEP1 ソラ x マチの相互理解（勉強会）

### STEP2 ソラ x マチの連携（ワークショップ）

2回実施

### STEP3 ソラ x マチの統合（構想案共創）

- 空飛ぶクルマの導入ビジョン(案)作成
- 導入に向けたロードマップ(案)作成

今年度のゴール

### 2024年10月

#### 目標：

- 空クルを理解し語れるようになる。（地域側）
- 城崎のまちづくり概要について理解をする。（空クル側）
- ワークショップの方向性が関係者間で理解されている。

#### 内容：

- 空クルの現状、リスクマネジメント、安全性
- バートレポート概要
- 空クル収益構造のイメージ
- 地域でのヘリ運用状況
- インバウンドエージェントへのヒアリング結果
- 北但大震災100周年記念事業の概要
- STEP2の進め方

参加者数：約30名

## 調査③：城崎まちづくり構想 x 空飛ぶクルマ

### STEP1 ソラ x マチの相互理解（勉強会）

### STEP2 ソラ x マチの連携（ワークショップ）

2回実施

### STEP3 ソラ x マチの統合（構想案共創）

- 空飛ぶクルマの導入ビジョン(案)作成
- 導入に向けたロードマップ(案)作成

今年度のゴール

#### 2024年11月（第1回）

##### 目 標：

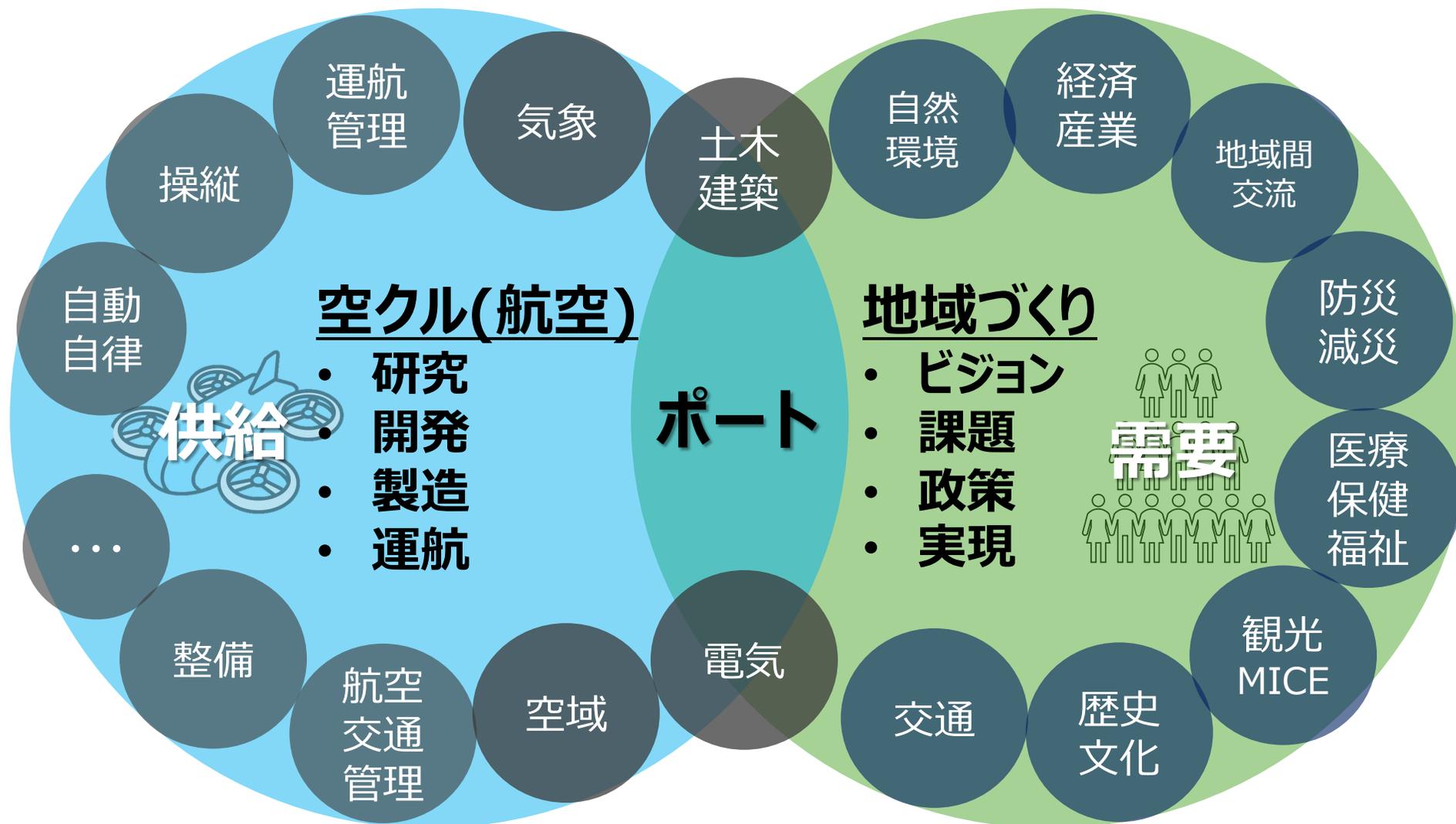
- 地域の活用方法・メリット、ルート案を整理する。
- 空飛ぶクルマの事業イメージ案を整理する。
- 実装に向けた時間軸・課題を整理する。

##### 内 容：

- 調査①設置検討調査 状況報告
  - 地盤改良、電気設備、3次元風況
  - 空クル事業構想たたき（ポート事業費、運航計画、時間軸など）
- 調査②環境アセス予備調査 状況報告
- 城崎関連ルートの飛行イメージ動画の共有
- ワークショップ
  - ①ユースケース・地域の導入メリット
  - ②空クルビジネスの仕組み
  - ③課題・時間軸・アクション

\* 事前に地域の関係者にアンケートを実施
- 第2回ワークショップの方向性確認

参加者数：約30名



離着陸場事業は「空飛ぶクルマ事業」と「地域づくり」の橋渡し役であり、地域づくりを前提とした構想・計画、ステークホルダー連携が社会実装へのキーポイント。

# 未来の福利を しかけよう

ご清聴ありがとうございました

創業の志を引き継ぎ、社会の福利を増やすため、より良い未来を描き、逆算しよう。  
そのために、お取引先も気づいていない、真の課題を解こう。  
短期的な成果や効率に捉われず、長期的な視点を持とう。

